米国ニューメキシコ大学薬学部留学生の長崎大学薬学部での臨床研修と本学薬学部生との交流

2025 年 3 月 9 日（日）から 21 日（金）までの 2 週間、アメリカ・ニューメキシコ大学（UNM）から、Jamileh Alassi さん（薬学部 4 年生）、Grace Kimura さん（薬学部 4 年生）、教員 1 名が、臨床研修のため長崎大学薬学部を訪れました。この研修は、2023 年 2 月 14 日に締結された UNM との大学間学術交流協定に基づくもので、毎年 2 月に行っており、今回で 3 回目です。

第 1 週目の初日には、留学生は長崎大学薬学部の学生たちと一緒に市内観光を楽しみ、翌日には薬学部の茶道部によるお茶会による歓迎会が開催されました。その後、長崎大学薬学部内の臨床実習室で事前の臨床研修を受け、試験に合格後、長崎市内の調剤薬局、漢方薬局やドラッグストアを見学しました。漢方実習では煎じ薬や紫雲膏（しうんこう）などの漢方薬を調製しました。長崎大学病院薬剤部では日本の病院薬剤師の仕事や役割を実際に見学しました。さらに佐賀県鳥栖市にある久光製薬の工場を本学学生と共に訪れ、消炎鎮痛貼付剤の製造過程を見学しました。

薬学部の臨床実習室で事前研修を受ける様子

実習室で煎じ薬を調合する様子

2 週目には留学生は上五島へ移動し、調剤薬局や病院において、調剤や在宅医療の現場を見学したり、離島における僻地医療について学んだりしました。 最終日の 3 月 21 日（金）には、学生交流会が開催されました。長崎大学からは鎌田萌さん（薬学部 5 年生）が日本の薬学教育について、髙山理紅さん（薬学部 5 年生）と満留菜央さん（博士後期課程 2 年生）が自身が行なっている研究について、英語で発表し、UNM からは、Jamileh Alassi さんと Grace Kimura さんが、アメリカの薬学部の臨床実習や長崎での学びについて発表しました。

この 2 週間研修期間中、のべ 42 名の本学薬学部学生が留学生と活発的に交流しました。本学の学生にとっても異文化や海外の薬学教育を学ぶ貴重な機会となりました。

交流会で発表を聞いている学生たち

交流会の参加者との記念撮影